

城辺俳句会

塩梅の心大事や桜餅

ママの手をぎゆうと握りて入園児

轉りて聞きつつ励む野良仕事

春月やうれしき時も涙して

振り返りしだれ桜に別れ告ぐ

高校に顔大人びて入学す

爪切つてデイへの支度柿若葉

発電の風車騎士めき嶺青し

よそ見してまた躓いて春の山

盛り上がる森を映して夕代田

「謎」

「七不思議」それで納得してた謎

餌狙う謎の狼海の中

謎めいた部屋へ這入って何も無い

深くなる謎にふつつつ湧く推理

謎解けてペしやんこになる日常が

老化へと変わるこれから謎ばかり

謎めいた言葉を信じ仰ぐ空

百歳の知恵絞り出す題は「謎」
謎のある女になれず只の母

さわらび短歌会

来年もこの花見たしと竹めば

我が肩に背に春の陽は降る

木戸口の大手毬いま花ざかり

道行く人に声かけられし

みどり濃き三株のレタスわさわさと

プランターに生いて卓を賑わす

白内障手術を終えて眼帯取り

桜開花を新聞に読む

せせらぎの音は流れて空青く

番の燕電線を蹴る

そんなには生きられまいと思いつつ

今年始めた十年日記

吾ら男子の節句の思い出裏山に

和紙で作りし小旗飾りぬ

コロナ禍に入院ならず自宅での

療養もはや六ヶ月過ぎぬ

隣り合ふ土佐のしづけき山里に

友と訪ぬる「月光ざくら」

藤森 玉子
橋本 百代

岩村千代子

扇野八代生

河上 明美

澤近 正弘

野崎 幸子

藤井 擴

前田 昭夫

前田 知子

前田 充

▶俳人をご紹介します

城辺俳句会 大和田いそ子さん（御莊平城）

両親の影響を受け、躊躇なく俳句を始めましたが、その奥深さに戸惑い、現在は師系鍵和田柚子の結社「秋麗」と「むさし野」に所属し研鑽を積んでいます。



作句活動に全国各地を吟行し、俳縁が交友関係を広げ、季語の体験は、生活の豊かさを齎すなど、俳句の醍醐味も味わっています。

昭和63年に吉田信保先生が創立された「城辺俳句会」を引き継ぎ「楽しく個性のある俳句作り」を目標に運営に当たっています。

夏野菜の苗あれこれと求め来ぬ
健やかにこの夏在るを願ひ
補助車に委ねて歩む試歩の径
ぼっかり白き半月に遭う

松本マス子
水野美代子

はじめまして。赤ちゃん。

4月受け付け分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

4月受け付け分(敬称略)

地区名	亡くなった方	満年齢
-----	--------	-----

木戸富士子

稲田つるみ

矢鋪 都

本多 暁

飯田 律子

沖 佐賀

本多 一会

大和田いそ子

加納 幸子

橋本 百代

仙波登志子

山田 静恵

宮田志賀子

山本 節子

大浜 紀子

吉田 丸美

田村 治子

※上記情報は、広報紙掲載に対して、ご家族等に同意を頂いております。